

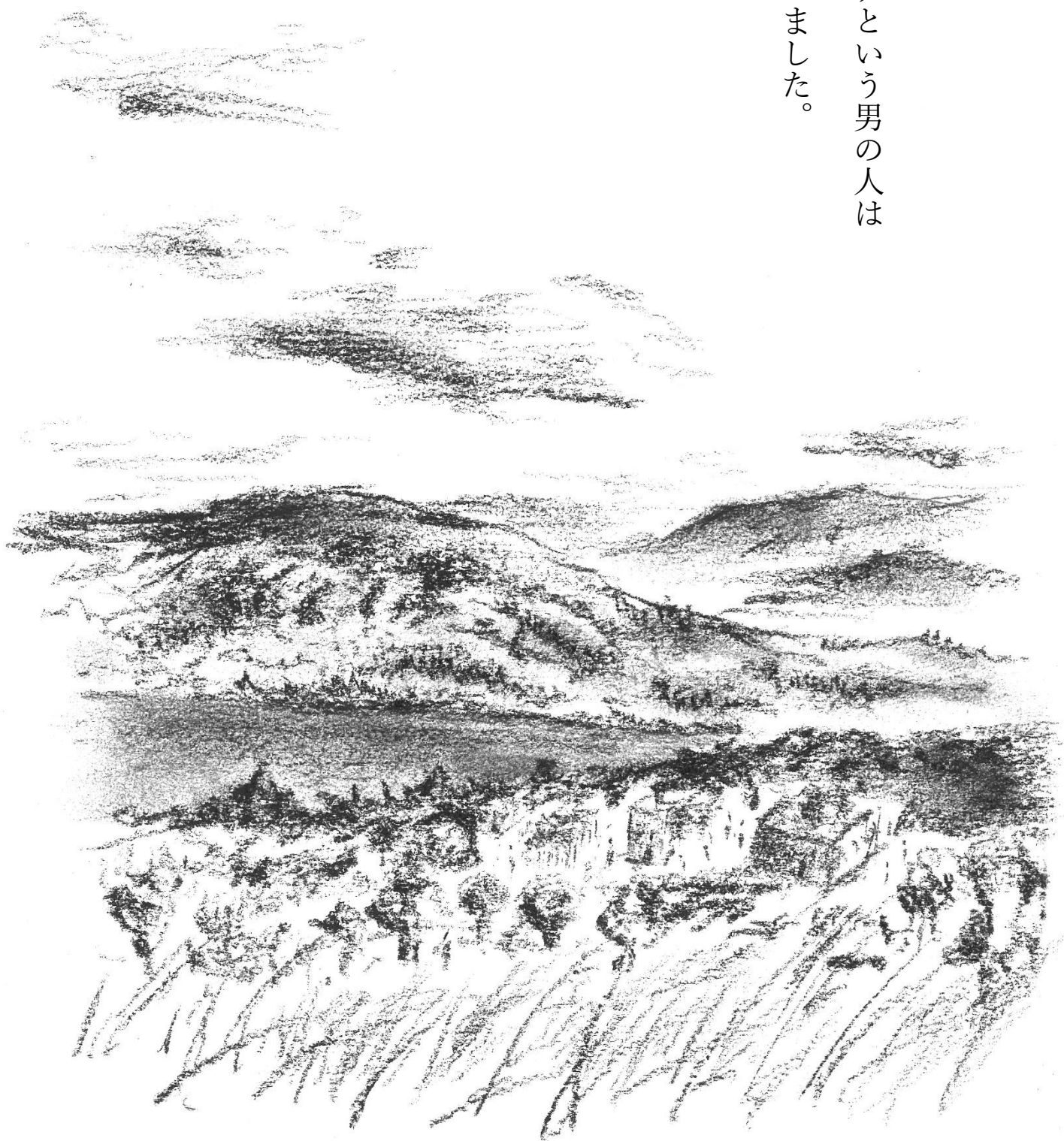
# ヨナの話

— 聖書からの話 —

再話・翻訳…ジャンケビン



むかし、むかし、ヨナという男の人は  
イスラエルに住んでいました。



ある日、主しゅである神様かみさまはヨナを呼んで、

「あの大きくて邪悪じゃあくな町ニネベへ行つて、

私の怒りいかをあいの町ちの人に告つげなさい」と言いました。

でも、ヨナの心は冷たかったので、

「主は優やさしいから、ニネベの人達は

自分のした悪いことみとを認あやまめて謝あやまれば、

きつと許ゆるされるはずだ」と考えていました。

それから、ヨナはニネベと反対はんたいの方向ほうこうへ向むかって、

ヨツパという港みなとで船ふねに乗のって主の前まへから

逃にげようとしてました。



最初は、全部うまくヨナの計画通り進んでいたけど、  
急に風と波がどんどん強くなって、

恐ろしい嵐になりました。

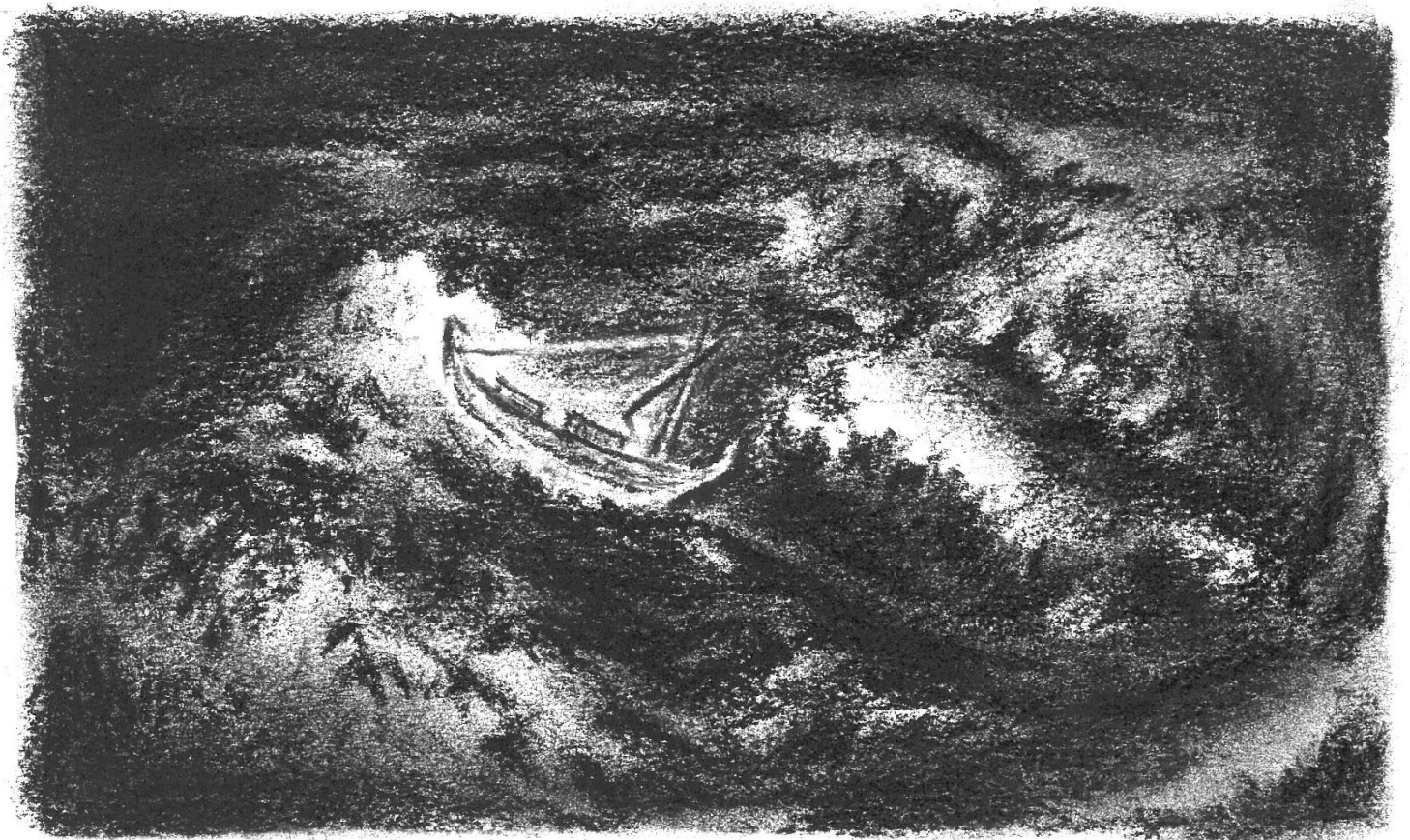
結局主から逃げるのはバカなことでした。

船が沈みそうになった時、ヨナは水夫達に

「私を海に投げ込めと、海が静かになる。

この状況は私のせいだから」と言いました。

水夫たちはそうすると、海が本当に静かになりました。



それで、主はヨナを助けるために、大きい魚にヨナを飲み込ませました。  
ヨナはその魚のお腹なかにいて、自分の非ひを認めたり、  
助けていただいたことを感謝かんしゃしたり、主に祈いのったりしました。



そして、主はヨナを許してあげて、

みっかご

かいがん は だ

三日後、魚にヨナを海岸に吐き出させました。

また、主はニネベのことについてヨナに話しました。

おとな

今回、ヨナは大人しく主の言う通りにしました。



やっとその町に着いた後、皆みんなに「今から四十日後に、

この町は滅ほろびることになる」と呼びました。

そして、ニネベの王様おうさまと人達はヨナの言葉ことばを信じて、

全員ぜんいん悪あくの道みちから離はなれました。

それを見たら、主はニネベを滅ほろぼす計画おを思い直なおして辞やめました。

しかし、ヨナは喜よろこんでいませんでした。



思った通り、主があとの邪悪じゃあくなニネベの  
人ゆるを許してあげてしまいました。

ヨナは町がどうなるかを見るつもりで、  
怒となりった顔で隣のほの山に登って、座って、待っていました。

その日、すあつごく暑あつかったから、

主は小せいちようさい木かを成長せいちようさせてあげました。

その木のお陰かげで、ヨナの座すずっているとこすずろが  
涼すずしくなりました。

そうしたら、ヨナは喜うれしくなりました。



ですが、夜になってヨナが寝ている間に、

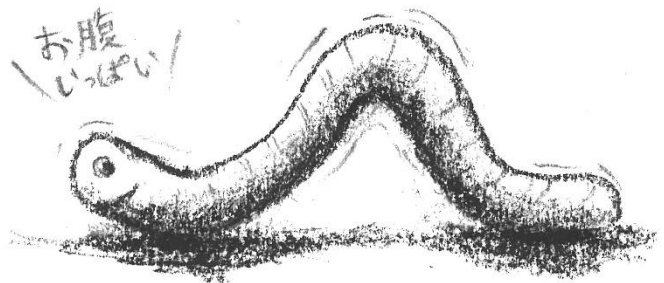
その木は一匹いっぴぎの虫むしに殺ころされました。

次の日は昨日より暑くて、

太陽たいようがヨナの頭にじりじり照てりつけたので、

ヨナは主にまた怒って、

「もう死んだ方がいいんです」と言いました。



すると、主はヨナを叱しかりました。

「その木は自分が育そだてなかつたし、成長せいちようさせなかつたのに、

あなたはその一日いちにちだけ生きていた木をそんなに

心配しんぱいしてあげるのは当然とうぜんなことだろうか。

だとしたら、私わたしがああの十二万人いじゅうにまんにん以上の人が

住すんでいる大きいニネベを心配して、

優しくしてあげることも当然とうぜんなことじゃないだろうか。」